

再発見！ふるさとの山城

岡山県中世城館跡総合調査

鎌倉時代末から戦国時代にかけて、山名・赤松・尼子・毛利といった群雄が覇を競いあった岡山県では約1,400か所もの城や館が築られました。岡山県古代吉備文化財センターでは、こうした中世の城館跡を総合的に調査する事業に、今年度から7か年の計画で取り組んでいます。

この事業では、山野に残る城館跡を一つ一つ訪ね歩いて、築かれた場所や規模、構造などを調べ、図面や写真により記録します。それと同時に、城館跡にかかわる地名や伝承、文献などをあわせて調査し、地域を外敵から守り支配するための拠点として築かれた城館跡の歴史を明らかにしようとするものです。その成果は報告書として刊行する予定ですが、今後さまざまな開発から城館跡を保護し、あるいは地域の歴史を学ぶ場所として活用する上でも大いに役立つことと思われます。

最初となる今年度は、備前市、瀬戸内市、赤磐市、玉野市、和気町の東備地域を中心に調査を実施しています。

(澤山孝之)



和気町天神山城跡の調査風景

国道180号改築に伴う発掘調査 続編！

おしかべ
刑部遺跡

総社市刑部

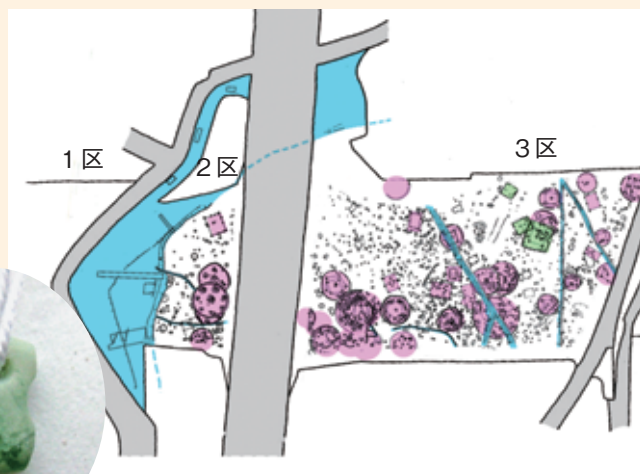
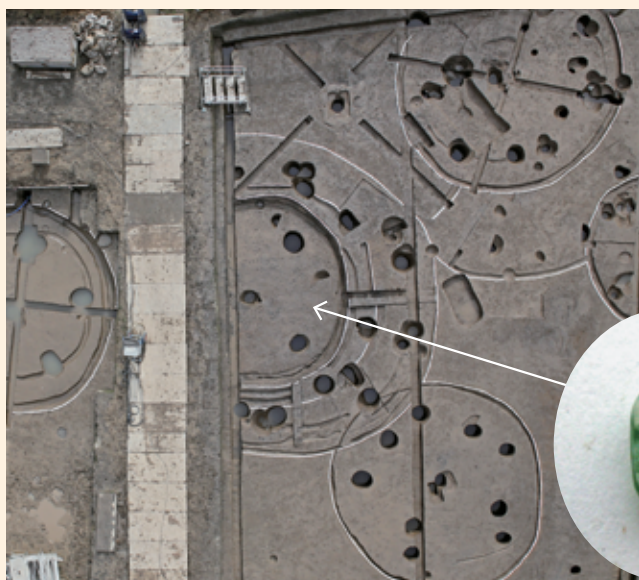
刑部遺跡は、総社市街地の北東部に所在する、弥生時代中期から古墳時代中期を中心とする集落遺跡＝ムラの跡です。国道180号バイパス建設のため、昨年4月から発掘調査を進めています。これまでの約1年間の調査で、次第にムラの様子が明らかとなってきました。

刑部遺跡の推定範囲は東西500m以上あります。調査の都合上、既存の道路を境に6つの区画に分け、今年度は2～6区の調査を行いました。現在は水田や宅地となっている平坦な場所もかつては起伏があり、その中の微高地^{びこうち}と呼ばれる高まりに人々は好んで居住していました。刑部遺跡では東西幅230mに及ぶ広大な微高地が広がり、微高地にあたる2～4区に竪穴住居や掘立柱建物などが多く建てられていました。岡山県内では、弥生時代の竪穴住居は円形が主流で、古墳時代にはほぼ方形に統一されます。配置図に示したように、2～3区には円形の竪穴住居が、4区には方形の竪穴住居が多く分布しています。このことから弥生時代には主に微高地の西半を、古墳時代には微高地の東半を居住地としていたことが分かります。4区より東は地形が下がり、5・6区では溝が多く流れていました。

弥生時代の主な遺構は、竪穴住居35軒、掘立柱建物9棟、井戸1基などです。微高地を貫くように、水路も掘削されていました。これらの遺構は幾つも重複しており、長期にわたって生活を営んでいたことがうかがえます。出土品は大量にあり、土器・石器などの日用品のほか、銅鏃^{どうぞく}やガラス製の管玉^{くだたま}や小玉、土玉、分銅形土製品など特殊な遺物も出土しました。そのうち、弥生時代の終わり頃の1軒



南西上空から見た刑部遺跡



3区の竪穴住居群とヒスイ製勾玉

の竪穴住居の中からヒスイ製の勾玉が出土しました。ヒスイは新潟県糸魚川^{いと い がわ}など限られた場所でしか産出しない希少品です。この住居からはほかにも土製勾玉やガラス製小玉、土玉など玉類が多く出土しており、ムラの指導者が住んでいたとも考えられます。遺構の密集度や出土品の質、量などからこの地域では有数のムラであったと考えられます。

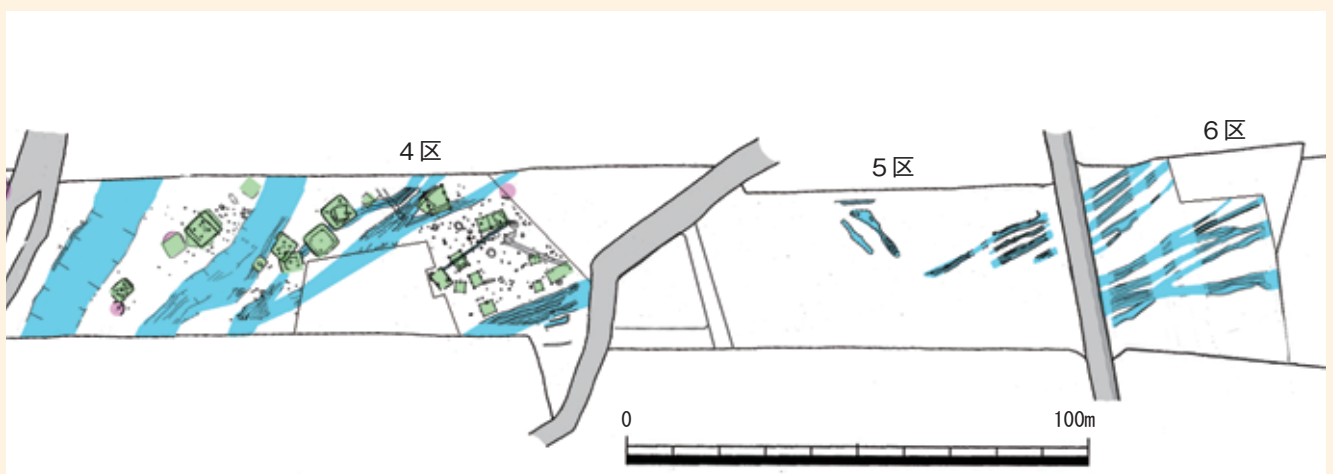
古墳時代の主な遺構は、竪穴住居18軒、掘立柱建物12棟、井戸2基などです。弥生時代と比べて全体に数が少なくなっていますが、県下における古墳時代中期の集落遺跡は少なく、貴重な調査例と評価できます。特に竪穴住居群の東側には掘立柱建物が集中して建てられる地区が見つかり、これまでに例のない集落構造として注目されます。

また、特筆すべき成果として、曲刃鎌^{きよくじんがま}の出土とカマド付き竪穴住居の発見が挙げられます。これらは共に朝鮮半島の影響を強く受けたものです。曲刃鎌は3区の5世紀初め頃の竪穴住居から出土しました。長さ16.3cmの鉄製で、それまでの刃が真っ直ぐな形（直刃鎌^{ちよくじんがま}）から刃先を曲げる形に改良されています。当時の最新技術の一つです。カマドが造り付けられていた竪穴住居も5世紀初め頃で、県下では最古段階の発見例です。位置が片隅に寄っていたり、明確な煙道^{えんどう}が無いなど古い特徴を示していました。また、カマドの中には鍋の底を支える高杯や、火にくべた薪が炭になって残っており、当時の使用状況が良く分かる好例でもあります。

カマドは古墳時代初め頃に朝鮮半島から伝わり、6世紀以降各地に普及していきます。初現期のカマドは九州北部や畿内などの限られた地域でしか見つかっておらず、渡来人^{とらいじん}が居住していた証拠の一つと考えられていますが、刑部遺跡では朝鮮半島からもたらされた土器が出土していないので、渡来人が住んでいたと断定はできません。しかし、曲刃鎌の出土と合わせて、刑部遺跡の中に渡来系の知識や技術をいち早く入手できる人物がいたことは確かなようです。当時の社会情勢を考えると、吉備の中で重要な位置を占める集落であったと言えそうです。（渡邊恵里子）



上：曲刃鎌 下：カマド付き竪穴住居



※平成26年2月での調査状況です。

■ 弥生時代の住居・建物 ■ 古墳時代の住居・建物 ■ 弥生時代—古墳時代の水路や川

県営住宅原尾島団地第3期建設工事に伴い、平成25年11月から平成26年1月まで発掘調査を行いました。調査地は百間川の堤防に近接し、平成23年度に調査した第2期建設工事の西隣です。

百間川原尾島遺跡は、昭和52年から行われた百間川河川敷内での発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代の集落や水田などに関する遺構が多数確認されて当時の拠点集落と見られるようになりました。

今回の調査でも弥生時代後期末（約1,800年前）の水田が見つかり、百間川原尾島遺跡における水田の広がりにより広範囲に及ぶことがわかりました。検出した水田は、現在の地面より2m下、海拔約2.7mにあります。洪水砂で埋まっており、当時の姿を留める形で検出できました。水田を区画する畦畔の高さは4cm程度で、畦畔で区切られた1区画の面積は約30～40㎡を測ります。水田は東から西に段々低くなりますが、1区画ごとの高低差は2cm程度で非常に緩やかです。（氏平昭則）



弥生時代後期末の水田（白線で畦畔を示す）

講座「続・古墳時代の考古学」・講演会「古墳時代の技術」

今年度の講座は、30名の受講者の皆さんと一緒に、昨年度に引き続き古墳時代について学びました。第2回の実習では、溶かした低融合金を鋳型に流し込み内行花文鏡を鋳造しました。第3回は、福井大学東村純子先生の「紡織の考古学～古代日本の機織りの源流を探る～」と、元興寺文化財研究所塚本敏夫先生の「保存科学が解き明かす古代の鉄器生産技術」による講演会を開催しました。120名の参加者は熱心に耳を傾けておられました。第4回のバスツアーでは箭田大塚古墳や長福寺裏山古墳群などを見学しました。

	開催日	内 容
第1回	8/24 (土)	講義1：古墳の移り変わり 講義2：古墳時代の食文化 見 学：センター展示室見学等
第2回	11/23 (土)	講義3：岡山の須恵器生産 講義4：岡山の製鉄遺跡 実 習：鋳造体験
第3回	1/25 (土)	講演会「古墳時代の技術」
第4回	2/22 (土)	古墳見学バスツアー (笠岡市長福寺裏山古墳群ほか)



講義の様子



鋳造体験の様子



東村先生の講演



塚本先生の講演

第2回やよい体験教室～塩づくりに挑戦！～

9月28日（土）、当センターにおいて、第2回やよい体験教室「塩づくりに挑戦！」を開催しました。当日は小学1～6年生の児童とその保護者25名が参加されました。

塩づくりに挑戦する前に、製塩土器を使った塩の作り方と、塩がいかに私たちにとって大切であるかということを勉強しました。その後、野外に出て炉に薪や土器をセットすると準備完了です。初めに火をおこす必要がありますが、弥生時代にはマッチやライターなどありませんので、火きり臼と舞きりという道具を使いました。炉の中で火が起きると、あらかじめ濃縮しておいた海水を土器に注いで、水分を蒸発させます。これを何度も繰り返すと土器の内側に白い塩の結晶が現れました。中には倒れたり壊れてしまった土器もありましたが、みなさん無事に塩をつくることができ、感激されているようでした。



塩の作り方を勉強中



製塩土器に海水を注ぐ

津島やよいまつり

10月26日（土）・27日（日）に、秋の恒例行事である津島やよいまつりを開催しました。会場は岡山県総合グラウンドにある津島やよい広場と遺跡&スポーツミュージアムです。勾玉作りや火起こし、石包丁によるイネやキビの収穫、粳すりといった弥生体験、会場全体を使ったクイズラリー、貫頭衣を着て弥生人に変身しての写真撮影などを実施しました。5回目を迎えた今年は、2日間で910名の皆様にお越しいただきました。



イネの収穫体験



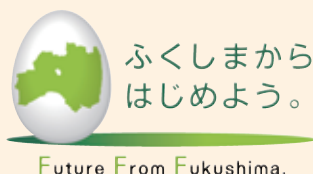
火起こしに挑戦

埋蔵文化財担当職員研修会

2月7日（金）、岡山県生涯学習センターにおいて、県及び市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修会を行いました。岡山理科大学教授の亀田修一先生には「古代山城は完成していたのか」、九州歴史資料館学芸員の岡寺良先生には「中近世城郭の調査方法－中世山城の地表面観察・作図・考察検討を中心に－」と題して御講演いただきました。



講演の様子



東北の 大地からの便り



宮城・岩手・福島 の3県では、東日本大震災の復興調査に伴う職員の広域派遣が2年目を迎えました。今年度は、北海道から沖縄までの43都道府県から、短期を含めて80人を超える専門職員が3県に集まり、復興が急がれる中で文化財保護との両立を目指しています。

筆者は4月の着任以来、多賀城市の山王・市川橋遺跡で、三陸自動車道の4車線化等（復興事業）に伴う調査に携わってきました。同遺跡は著名な古代城柵、多賀城に伴う都市の遺跡で、道路や掘立柱建物など、奈良～平安時代の街の構造や変遷を解明するうえで重要な成果が得られました。宮城県職員や各地の派遣職員と一緒に、多賀城の城下町ともいえるべき重要遺跡の調査に関われたことは、筆者にとっても忘れがたい経験となりました。

宮城県内の復興調査ではほかにも、マクロ漁で栄えた縄文時代の集落（気仙沼市波怒棄館遺跡）、保存状態のよい中世山城（南三陸町新井田館跡）、東北地方最古の木簡（山元町熊の作遺跡）、貞観・慶長大津波の堆積層（岩沼市高大瀬遺跡）など、地域の歴史解明に資する貴重な発見が相次いでいます。

平成26年度以降、防災集団移転をはじめとした復興事業がさらに本格化し、それに伴って埋蔵文化財の発掘調査も増加が予想されます。調査の効率化・迅速化はもとより、調査で得られた成果を地域に還元し、新しい街づくりや文化振興にどう活かしていくのかが、より問われることになりそうです。

なお、復興調査の様子はセンターホームページの「東北の大地からの便り」コーナーでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

（岡本泰典）



古代の道路跡（多賀城市山王遺跡）



現地説明会（南三陸町新井田館跡）

センター収蔵品紹介 VOL.15

—弥生時代～古墳時代のモモ 上東遺跡・津島遺跡ほか—

遺跡の発掘調査を行っているとき、弥生時代や古墳時代のモモが出土することがあります。とはいえ、すでに果肉はなく、日頃私たちが種と呼ぶ桃核（中にある種を保護する硬い皮）^{とうかく}だけのことがほとんどです。その種の長さが2～3cm程度で、現在私たちが食べているものより小さいことから、当時のモモの実全体も今より小さかったと考えられています。

日本最古の桃核は、縄文時代前期（約6,000年前）の長崎県伊木力遺跡出土のもので、県内では、岡山市北区津島岡大遺跡の縄文時代後期（約3,500年前）が最古です。ただ、縄文時代の出土例は少なく、その後の弥生時代から古墳時代にかけて急増するようです。

原産地の中国^{しんせん}では、不老不死をもたらし食べ物と考えられていたモモの実。秦から漢の時代にひろく浸透した神仙思想とも深く関わっており、ちょうどその頃の日本は、桃核の出土が増える弥生時代に当たります。モモの実に不思議な力を信じる考えが、海を渡って入ってきたかもしれません。

これまでに県内では、22遺跡（当センター関係は19遺跡）で計13,000個を超える桃核が出土していますが、倉敷市上東遺跡と岡山市北区津島遺跡の出土数は他を圧倒しています。両者は弥生時代の大集落であり、大量の桃核が、一つの遺構でさまざまな遺物とともに出土していることが特徴的です。各種土器、農具などの生産道具、武器・武具、^{ほくこつ}卜骨などマツリの道具、建築部材など多種多様です。土器には、特別な文様や絵画が描かれたものや、わざと穴が開けられたものもあります。同じように奈良県でも、桜井市纏向遺跡や天理市布留遺跡が群を抜き、いろんな遺物を伴っています。一遺構でこれほどまでに大量の桃核が出土することは、全国的に見ても珍しいことですが、弥生時代から古墳時代の特色でもあるようです。

川や土坑から出土する数々の道具（時には建物も）は、マツリや儀式に使われたのかもしれませんが。具体的な内容は分かりませんが、その場面で、モモあるいは桃核が、何かの役割を担っていたことは明らかです。集まった人々が共に食べたのか、カミへの供物か、また託した思いは不老不死か、ムラの平穏と安泰か、そして目的は達せられたのか……。興味は尽きませんが、今となっては「それはカミのみぞ知る」です。

（柴田英樹）



上東遺跡出土の桃核



上東遺跡の波止場状遺構

手前のたくさんの土器とともに桃核が出土

遺構別の桃核出土数

	遺跡名	遺構名	出土数	時期
岡山県内	上東遺跡	波止場状遺構	9,606	弥生後期
	津島遺跡	河道	2,359	弥生後期
	百間川沢田遺跡	井戸9下層	401	古墳前期
	百間川今谷遺跡	溝15下層	316	弥生後期
	百間川米田遺跡	土坑128	76	弥生後期
	百間川今谷遺跡	水田4下部溝	63	弥生後期
	百間川米田遺跡	井戸109	52	古墳前期
	百間川沢田遺跡	井戸11	50	古墳前期
	百間川米田遺跡	井戸114	43	古墳前期
	纏向遺跡（奈良県）	土坑	2,765	弥生後期
県外	布留遺跡（奈良県）	流路上層	1,546	古墳後期
	南滋賀遺跡（滋賀県）	溝	520	古墳後期
	前田遺跡（鳥根県）	河道	408～	古墳後期？

平成25年度各課事業一覧

〈試掘・確認・発掘調査〉

課	遺 跡 名 (所 在 地)	調査原因	種別	調査の内容・成果	調査期間 調査面積
調査第一課	吉田B遺跡・中和村No39散布地 (真庭市蒜山吉田)	一般国道428号道路改築	確認	5か所のトレンチを設定。遺構・遺物ともに確認できなかった。	6/17～7/2 15.5㎡
	特別史跡旧閑谷学校石塀 (備前市閑谷)	特別史跡旧閑谷学校石塀保存整備工事	確認	4か所のトレンチを設定。江戸時代の石塀基礎を確認。	8/5～8/7 2.1㎡
	小吹山38号墳 (真庭郡新庄村)	公共急傾斜地崩壊対策工事	確認	1か所のトレンチを設定。古墳に伴う盛土と埋葬施設と考えられる墓坑を確認。	8/19～8/21 7.1㎡
	経塚古墳 (倉敷市真備町上二万)	県道柳井原上二万線地方特定道路整備事業	全面	遺構・遺物ともに確認できなかった。	9/9～9/18 147㎡
	神明遺跡・総社遺跡 (総社市福井・総社)	一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事	確認	5か所のトレンチを設定。神明遺跡では土坑・柱穴を確認。	11/5～11/8 24㎡
	和田遺跡 (小田郡矢掛町矢掛)	県立矢掛高等学校特別教室棟建替	確認	5か所のトレンチを設定。古墳時代以前の柱穴を確認。	11/26～11/29 16.7㎡
	津雲貝塚 (笠岡市西大島)	一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事	確認	2か所のトレンチを設定。縄文土器や古墳時代以降の流路を確認。	12/9～12/19 40.9㎡
	百間川米田遺跡 (岡山市中区米田地先)	遺跡範囲確認	確認	7か所のトレンチを設定。中世の溝1条を確認。	1/16～1/28 56㎡
調査第二課	岡山市No1213散布地 (岡山市北区檜津)	一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事	試掘	遺構・遺物ともに確認できなかった。	2/17 10㎡
	鍛冶屋辻A古墳群 (美作市中尾)	一般国道374号(美作岡山道路)改築工事	全面	弥生時代中期の堅穴住居4軒、古墳時代前・中期の古墳4基を調査。	4/1～5/31 633㎡
調査第三課	百間川原尾島遺跡 (岡山市中區原尾島)	県営住宅原尾島団地第3期建設工事	全面	弥生時代前～後期の水田面を検出。	11/1～1/31 772㎡
	刑部遺跡 (総社市刑部)	一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事	全面	弥生時代中期～古墳時代中期の集落を調査。	4/1～3/31 12,600㎡

〈報告書作成・刊行〉

課	報告書作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)
調査第二課	辺谷製鉄遺跡ほか、鍛冶屋辻A古墳群ほか、百間川原尾島遺跡	県報告240(辺谷製鉄遺跡・辺谷中田遺跡・成ル古屋遺跡・水口遺跡・谷山遺跡ほか)
調査第三課		県報告239(百間川原尾島遺跡・百間川沢田遺跡)

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中！



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花房1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交 通 案 内 JR 山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分

JR 吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業 務 時 間 AM8:30～PM5:15

●休 業 日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

